



元気な

# グループ紹介

## 三和公民館

### 子ども書道教室（サークル）



毛筆に気持ちを集中

伝統文化子ども書道教室は、日本の伝統文化を身につけさせ、これからの日本を創る心豊かな子どもを育てる事を目的に、発足しました。

子どもが聞こえる公民館にしたいという願いに呼応して、次々と希望者が増え、一年生から六年生までの十八名が、正座して、和紙と毛筆に気持ちを集中して、お習字をしています。

地元出身の書道家掛合広子先生は「毛筆習字を好んでし、素直で気持ちの良い子どもたちだから、わたしもとても楽しんでいきます」と言われています。

公民館まつりには、子ども書道教室の作品も展示し、「良い字を書いて、じゃ〜と評価されて、子ども笑顔も、ほころびました。これからも毎月作品を展示して、子どもたちの励みにしたいと思っています。

学校から帰って、先生が待っておられる公民館の教室へ、元氣よく挨拶

をして入っていきます。

時間があるときには、上の学年の生徒が学習道具を開いて、自分の宿題など出して勉強していると、下の学年の生徒も見習って一緒に勉強していることもあります。

習字が終わってから図書室で本を手にしても図書に來て貰う家の人を待つている子どもたちもいます。

迎える集まる保護者

### 編集後記

ようやく桜の便りが聞こえ始めたかと思うと、また雪が降り、今年はこのほか春の訪れを待ち遠しく感じます。

神石高原町も二年目の通年予算が編成されました。こちらもしばらく我慢の時期と思われそうです。寒さに耐えなければ必ず暖かい春が訪れます。

今年度は、厳しい中にも、お出かけタクシーや、定住対策の夢をかけた井関地区の総合開発事業へ

も、活気に満ちた子どもたちの姿を見て「落ち着いて字を書くようになったよ」

「上の学年の人や下の学年の人とも支え合っていて、仲良くしているなあと、喜びの声が交わされています。」

習字を書いている姿を目にし、これが本町の公民館の姿かとしみじみ感じています。

の着手、農業振興、福祉事務所の新設など未来にたぐく事業も予算化されました。

反面、支所機能の縮小、公共事業の削減など住民サービスの低下が懸念される面もあります。

低成長の時代、意識変革も必要だと思います。

神石高原町の存続に向け、理事も議会も職員も住民も一体となつて取り組み時です。

金は無くても希望の持てる町づくりを目指して頑張りますよ。（松）

■住所 / 広島県神石郡神石高原町小島二〇三五

TEL 0847-189-1334  
FAX 0847-185-1339